

### 令和5年度 新しい仲間と共に チャレンジの始まり

桜の花が満開の4月3日、教職大学院の入学式がありました。現職院生12名（香川県派遣10名、岡山県派遣2名）と学部卒院生11名の合わせて23名の新入生を迎え、8年目がスタートしました。更に、教職大学院担当の3名の先生方を迎えて新たな年度が始まりました。

また、大学院2、3年生の企画・運営による歓迎会も開催されました。和やかな雰囲気の中、短時間ではありますが、感染対策を行いながらグループによるゲームなどで交流を深めました。



### 教員挨拶



学校力開発コース  
特命教授 倉沢 均

実は、私にとって香川大学はとても縁のある学校です。まず、私は香川大学教育学部の卒業生で、香川県の公立小学校で勤務した後、附属高松小学校で10年間、その後の県教委義務教育課や県教育センター時代は、教員研修等で、香川大学にご指導ご協力をいただきました。さらには、再び勤務した附属高松小学校での2年間は副校長として、香川大学と一層深いつながりがありました。

自分の教員生活を振り返ってみた時に、とりわけ公立小学校、附属高松小学校、公立中学校、それぞれの学校での校長、副校長、教頭としての9年間の経験は大変貴重なものでした。「教職は自身の人間的成長につながる」こと、「記録に残すことの大切さ」を視座に、これまでの経験を活かし、関係の皆様のために、お役に立てるよう努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



授業力開発コース  
講師 浅井 哲司

高度教職実践専攻 授業力開発コースで国語教育を担当します。国語科の授業では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などがあります。いずれも話し合うことによって学ぶことが増えてきました。研究テーマは、実際の話し合いを分析することで、どのような指導が話し合いをよくするのか、話し合いの指導方法です。特に、話し合いを録音した音声や映像、文字で振り返るとどのように違いがあるのかを調査しています。これから、実際の授業づくりの場面で、どのように長期的に話し合いを指導することが「話すこと・聞くこと」だけでなく「書くこと」や「読むこと」にも効果的なのか検討し、みなさんと一緒に授業力を磨いていきたいと考えています。



特別支援力開発コース  
准教授 加藤 隆芳

特別支援力開発コースに着任いたしました。肢体不自由児が学ぶ特別支援学校での勤務経験を礎に、運動障害を主訴とするお子さんへの指導を専門にしています。肢体に不自由のある方は、身体のみとともに他の障害を併せ持つことが多く、そのため、障害の程度や状態は一人一人大きく異なり、学びや生活の方法において個性が高くなります。肢体不自由の方と接する経験が長くなりつつある今でも、出会った日からじっくりと個に向き合う毎日です。

本学においてもこれまでと同様、一人一人のお子さんのよさ・すばらしさをさらに伸ばすことへ寄与できるよう精進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 短期履修学生制度とフォローアップ・プログラムについて

香川大学教職大学院では、教職経験が5年以上又は学校教育法施行規則第20条に規定する「教育に関する職」に10年以上あり、かつ教育委員会等からの推薦があり、厳正な審査により認められた方については、1年間の履修で修了することができる「短期履修学生制度」を設けています。この短期履修学生制度で修了した現職教職員の方に、大学院修了後もサポートを継続する1年間の「フォローアップ・プログラム」を実施しています。昨年度、フォローアップ・プログラムを終えた修了生の声を紹介します。

### 高松市立国分寺北部小学校 教頭 日吉 のり子

私は、昨年度の置籍校で、中学校の校内若年教員研修の在り方について実践研究に取り組みました。昨年度末には、実践研究の課題を基に、置籍校においてさらに研究を深めようと計画しました。

しかし、昨年度末の人事異動により、勤務校が小学校に変わり、フォローアップ・プログラムの計画を見直すことになりました。指導教官の先生にいただいたご助言を基に、中学校の校内若年教員研修において有益だった手立てが小学校においても効果を得ることができるのかの検証を中心にした実践研究を行いました。

フォローアップ・プログラムは日常の業務と並行しての実践研究なので、大変なこともありましたが、小学校と中学校の共通点や相違点を見いだすことにつながりました。香川の教育づくり発表会で発信したことで、他校の教職員の皆さんのお役に立てたら幸いです。

### 早島町立早島中学校 教諭 長嶺 翔太

フォローアップ・プログラムでは、教職大学院での学びを現場に還元することに注力しました。置籍校でのユニバーサルデザインに関する道徳科の公開授業では、生徒たちが多様なニーズを持っていることを考慮し、ICTを活用した意見交換を取り入れました。また、岡山県管内の指導主事研修会で大学院での実践研究の発表を行い、参加者からの質問や意見が多く寄せられ、有意義な議論を行いました。さらに、日本教職大学院協会のポスターセッションにも参加し、全国の教職大学院生たちと交流しました。このような活動ができたのは、香川大学教職大学院での学びがあったからです。今後も教育現場での実践や研究を通じて、生徒たちとともに学び続けていきたいと思っています。

### 丸亀市立飯山中学校 教諭 山田 真由子

教職大学院で私は、特別支援教室「すばる」においてソーシャルスキル・トレーニングの実践研究を行いました。そして、フォローアップ・プログラムでは、通常の学級でストレスマネジメント・プログラムの実践をしました。個別指導と、集団指導という違いはありますが、どちらもまずはアセスメントが重要であること、そして、子どもの実態や特性にあった指導方法を考えなければならないということ、指導内容は先行研究を参考に、理論に基づく指導方略を考えることの必要性は共通でした。

指導内容に迷ったときは、指導教員から丁寧に助言をいただけたことは、とても心強かったです。今後も大学院での学びをもとに自己研鑽に励み、得た知識や技能を同僚にも伝えられる教員を目指したいと考えています。

## 令和6年度 大学院入試日程等のご案内

入試日程は、右の通りです。入試の詳細については『学生募集要項』で確認してください。学務係で配付しています。また、ホームページでも案内しております。個別の質問等については、ホームページから「教職大学院説明会特設web会場」に移動し、問い合わせフォームをご利用ください。

A日程：2023年 8月26日(土)  
B日程：2023年11月18日(土)  
C日程：2024年 1月20日(土)



教職大学院の  
ホームページ